

沖  
繩  
之  
鹽  
業



# 沖繩ノ鹽業

(鹿兒島鹽務局技手岡嘉平次調査報告ニ依ル)

## 第一章 鹽業ノ沿革

本縣ニ於ケル鹽業ノ濫觴ニ就テハ漢トシテ口碑ノ傳フルモノナク推知スルヲ得スト雖トモ古來國頭郡大宜味間切鹽屋村ハ蓋シ創始ナルヘシト云フ察スルニ微々タル鹽業ニ過キサリシヲ琉球藩ノ東風平王子朝春ナル者鹽業改良ノ必要ヲ感シ康熙三十二年鹽瀨芝香氏ヲ鹿兒島ニ派遣シ性不詳ノ鹿兒島人ヲ得テ歸ルヤ那覇區泊ノ鹽田ヲ賜ハリテ芝香ト性不詳ノ鹿兒島人ト共力シ大ヒニ製鹽法ヲ改良セリト

明治十五年左ノ記錄アリ(鹽瀨芝完ハ芝香ノ子ナリ)

### 潟原繪圖表永代御下賜願

恐慌之至御座候得共申上候當縣下鹽之義從前ハ國頭方ヨリ爲燒出由候處然々存知之者不罷居至テ僅之出來高ニテ國中用分モ等合不申候ニ付康熙三十三年私系祖鹽濱芝香御内地ヘ罷登委習受候様御達ニヨリ自分造作ヲ以テ鹽燒様傳授相遂歸帆早速上申之上潟原、砂干場作立右鹽燒出物奉行孟氏佐邊宗茂見分ニ入候處位宜敷其上取實モ格別相増世上ヘ廣ク相教國用無支相辨永々御國家重寶相成候ニ付鹽敷場並繪圖面貳枚竿入帳等永代被下賜候間舊藩通被仰付度左候ハ先年差上置候通上納モ年々無遲滯納上可申候條何卒願意御採用有御座度別紙繪圖面寫取添此段奉歎願候也

久米村二百五十四番地土族

明治十五年八月三十日

鹽 濱 芝 完

沖繩縣令上杉茂憲殿代理

沖繩縣少書記官 池 田 成 章 殿

案スルニ舊藩時代ニ於ケル沖繩縣ノ鹽業ハ微々タルモノニシテ鹽濱氏改革以來一段ノ進歩ヲナシタルモノ、如ク而シテ其鹽



業法ハ全ク鹿兒島縣下ノ方法ヲ模擬シ從テ鹽田用具ノ如キ鹿兒島語ヲ轉訛シタル點多々アリ創始國頭郡(北部)ニアリト雖トモ現今一般ニ行ハル、鹿兒島流ハ鹽濱氏(那霸區即チ南部)ヨリ普及シタルモノナルヘシ  
 元來鹽業者ハ海濱漁業若クハ農業者ノ副業ニシテ組織至ツテ小且ツ資本家ニ乏シクシテ以來改良ノ事蹟ニ乏シ  
 明治三十六年沖繩縣統計書ニヨル縣内鹽田地反別及地價左ノ如シ

間切名	村名	鹽田反別	一反步地價(平均)
那霸區	泊糸	一六六、七、一六	九二、六七
兼知	知念	八二、二二	三〇〇〇
佐同	佐敷	七四、一六	一〇〇〇
同	仲伊保	一、四、一六	〇、五〇二
同	富	二六〇、〇九	五〇〇〇
同	眞祖	一四三、〇三	五〇〇〇
同	宇謝	八八、二七	三〇〇〇
同	島	一八八、〇五	三三四〇
同	謝名	一二二、二五	五〇〇〇
同	比嘉	七五、〇四	五〇〇〇
同	山	二七三、二一	四二九三
同	山城	一、二、二七	五〇〇〇
同	安里	二九六、〇、二九	九八八六
同	泡	一六九、一一	三〇〇一
同	比	一〇四、二、一一	二、六二四
同	上	八五、一九	三〇〇〇
同	大	九四、〇〇〇	〇、五〇〇
同	護	三、五、二〇	一、〇〇一
同	頭		
志	江		
國名	地部		



一 那覇區泊鹽田ハ那覇市街ノ北部ニ在リテ西南海ニ濱シ東南安里川(幅卅間位)北ニ向ツテ流ル即チ泊鹽田ハ海ト河及市街ヲ以テ包マレタル一團ノ地區ニシテ海濱ニ堤防ナク鹽田ニ一條ノ不完全ナル溝渠横ハルノミ區劃ハ甚ダシク不整形ヲナシ

### 第二章 製鹽法

合	同	同	同	同	下	平	同	本	同	今	同	同	同	羽	同	大	同
											歸					宜	
							地良		部		仁			地		味	
計	與	伊	仲	長	佐	狩	健	邊	湧	仲	濟	饒	我	真	津	田	奧
	那	良			和			名		宗	井	平		喜			
	覇	部	地	濱	田	俱	堅	地	川	根	出	名	部	屋	波	港	間
	一、二、四、二四	二、三、四、二九	一、二、九、一九	一、四、〇〇	三、六、二、〇四	一、九、〇五	四、九、〇六	四、二、二	四、〇、七、〇四	七、六、二七	二、五、〇一	六、七、三、二五	九一、〇、二九	二、〇、〇八	一、三、七、一六	一、八、〇、一六	七、四、二七
	四、六、八一	五、〇〇〇	四、九、九九	五、〇〇〇	四、一、八三	四、九、九八	一、〇〇〇	九、九、四	四、〇、三、九	一、〇〇〇	四、九、九八	六、六、一二	六、七、三〇	三、〇〇一	六、九、九九	一、〇〇〇	二、二、九一
一、二、六、八、二、二、三																	

(三〇) 沖繩ノ鹽業 第二章 製鹽法



鹽田ノ一部ハ車馬頻繁ナル道路ヲ兼ヌルカ如キ或ハ市街惡水ノ浸入スル等不完全極マル有様ナリ地盤ハ砂質ニシテ一見石灰ニ富ムモノ、如ク粒團組織ヲ構成シ易シ

鹽田ハ右ノ如キ有様ナルヲ以テ鹽田ノ一部ハ一ケ月中半ハ潮水ニ浸漬シ舊曆一日及ヒ十五日ノ滿潮時ハ全部深二三尺潮水浸入シ其前後三日間ハ採鹹シ能ハサルモノ多シ

二 美里間切泡瀨鹽田ハ沖繩縣本土東海岸ニ於ケル最大鹽業地ニシテ泡瀨半島ノ南部一帶ノ淺瀨ヲ鹽田トナシ東及ヒ南海ニ面シ西及ヒ北方ハ平坦畑地及部落ニ接ス鹽田構成ノ不完全ナルコト那覇區泊ニ似タリ土質前者ト異ナリ砂色黃白ニシテ礫ヲ混スルコト少ナキカ如シ

三 豊見城間切即チ琉球南部ハ現今米原及ヒ糸滿村ニ數反歩ノ既成鹽田アルノミナレトモ今後鹽田構成方法宜シキヲ得ハ百餘町歩ノ鹽田ヲ開拓シ得ヘシト云フ實ニ將來有望ノ地ニシテ小祿間切大嶺村ヨリ糸滿村マテ沿岸約一里ノ間干潮時ニハ幅十町乃至十二町ノ廣濶ナル砂質地盤ヲ露出スルヲ目撃セリ

(一) 鹽田用具

用具名稱	一敷ニ要スル個數	價格	保存年限	一ケ年ニ要スル費用	用具使用ノ目的及修理費
くささ (鋏)	二	〇・六〇〇	三年	〇・二〇〇	鹽田修理用具
ささ (刺シ)	二	〇・六〇〇	一年	〇・六〇〇	搬砂用具
ささ (鹿兒島)	二	〇・二〇〇	六ケ月	〇・四〇〇	撒砂及ヒ沼井堀ニ用ユ
くさ (寄セ)	一	〇・二六〇	五年	〇・〇三二	爬砂用具 毎年修理十二錢
よ (寄セ)	一	〇・四〇〇	一年	〇・四〇〇	集砂用具
く (小寄セ)	二	〇・一〇〇	一年	〇・一〇〇	をーだーニ鹹砂ヲ移スニ用ユ
た (擔荷)	二	二・〇〇〇	十五年	〇・一三三	搬水用具 年修理拾錢
棒	二	〇・二二〇	一年	〇・二二〇	同及撒砂ニ用ユ



皿	はらいたけ(拂竹)	〇・二二〇	五年	〇・二四〇	撒潮用具
小	刀	〇・二〇〇	五年	〇・二四〇	砂ヲ拂フニ用ユ
た	(煎 熬 用)	〇・〇一〇	十年	〇・〇四〇	鹽田用具修理ニ用ユ
釜		〇・二〇〇	一年半	〇・〇〇一	鹹度ヲ知ルニ用ユ
竈		〇・三五〇	毎年	一・四六六	
ば	い	〇・一六〇	一年	〇・三五〇	鹽ヲ釜ヨリ揚クル筈
と	き	〇・一五〇	二十年	〇・二六〇	苦汁滴下器
ち	に	〇・〇五二	十年	〇・〇一五	桶(手桶)
桶		三・〇〇〇	廿年	〇・〇二五	年修理ニ拾錢
こよせぐわ		〇・〇二五	三月	〇・二五〇	鹽ヲ搔キ揚クルモノ
なすちうくし		〇・一五〇	五年	〇・二二〇	鹽殻ヲ分離スルニ用ユ
さ	の	〇・四九〇	五年	〇・〇三〇	割木ヲ切斷
ひ	し	〇・二二〇	一年	〇・〇九八	燃料ヲ取扱フモノ
と	ま	〇・九〇〇	二年	〇・二二〇	鹹砂ヲ貯フニ用ユ
皿		〇・二二〇	一年	〇・一八〇	鹹水ヲ釜ニ移スモノ
計		五・二二四		〇・二二〇	

(二) 採 鹹 法

(イ) 鹽 田 區 別

鹽田ハ入濱ニシテ那覇地方ニ於テハ一戸分ヲ稱シテ「一敷」ト云フ其地域一反乃至一反六畝歩ニシテ前項鹽田用具及ヒ以下記  
スル各項モ亦一敷ヲ標準トシ論セントス



「一敷」分ハ左ノ如ク各種占有面積ヲ區分スルヲ得

一、撒砂面積

一反乃至一反五畝

一、沼井臺(砂及臺井ヲ設ケル塚如ノキモノ)

二間四方四歩

一、海水溜(但シ共有)

二間乃至四間四方九歩乃至十六歩

此外「一敷」外ニ釜屋敷地六坪内外アリ「一敷」ニハ特ニ堤防溝渠ト稱スヘキモノナク只タ河及ヒ海ニ接スル鹽田ニハ粘土又タハ石ヲ以テ高サ一尺位幅七八寸ノ堤ヲ設ケ全鹽田ニハ一條ノ大溝渠横ハルノミ

(ロ) 採 鹹 操 作

(午前)七八時ノ頃ヨリ沼井側ナル砂ヲ鹽田ニ搬出ス其用具ヲ「を、だー」ト稱シ内地ノ「もつこ」ノ如キモノナリ砂ハ各所ニ點々堆積シ「よし」ニテ田面ニ撒布シ「はぼーさ」ヲ以テ左右ニ地上ヲ拂ヒタル後チ「さら」ヲ以テ海水溜ヨリ海水ヲ撒布ス茲ニ於テ準備作業ノ一段落ヲ告ケ各自家ニ歸ル頃恰モ十時

(午後)一時頃ヨリ(天候ニヨリ一様ナラス)再ヒ鹽田ニ集リ(くるばし)ヲ曳キ爬行スルコト縦横二回若クハ斜一回ヲ加ヘ二時頃ヨリ集砂ニ移ル集砂ハ「よせ」ヲ以テ鹹砂ヲ畦狀ニ集メ「くよせ」ニテ「を、だー」ニ移シ充ツレハ沼井ニ搬入若クハ沼井臺ニ貯ヘ翌日採鹹ヲナス(後法ヲ採ルモノ多シ)即チ翌朝沼井ニ鹹砂ヲ投シ海水ヲ注加シ(たま)ト唱スル器具即チ小ナル竹筒ニ松脂ヲ練リタル玉ヲ入レ置キタルモノニテ浮沈ニ依リ濃度ヲ觀測シ鹹水濃度低キモノヲ二番垂トス鹹水ハ「さら」ニテ「たんご」ニ移シ釜屋内ナル桶ニ搬入ス

搬砂量一反歩(小ナル一敷)ニ付キ六十「かため」(「かため」一斗五升)即チ九石(冬期ハ七石位ニ減ス)斤數約六千七百五拾斤即チ坪三升撒トス

海水散布量坪ニ付「さら」ニ三杯(一杯五合)即チ一升五合

(ハ) 採 鹹 量



(夏季) 一沼井ニ付キ鹹砂六百斤ヲ投シ海水一石五斗藻垂三斗ヲ注入シテ鹹水四斗藻垂三斗ヲ得

(冬季) 一沼井ニ付海水八斗藻垂三斗ヲ注加シ鹹水二斗藻垂三斗ヲ得

右ハ鹽業者確實ナル人物ニ就テ調査シタルモノナレトモ尙ホ他地區ニ於テ勞働者ニ問フニ

一敷(一反三畝ト假定ス)ヨリ夏ハ鹹水七「かため」(桶)一「かため」ハ三斗(半即チ二石二斗五升冬ハ三「かため」ト云フモノアリ四「かため」トフモノアリ四「かため」トスレハ二石二斗

比重	夏	海水	藻垂	鹹水
	度	三	一〇	二〇
比	冬	二	一四	一九
	度	二	一四	一九

本年二月二十六日二三鹽業者ノ鹹水ヲ測リシニ比重十九度以上二十一度ニ昇レルモノアリ夏期ハ察スルニ二十度ヲ下ラサルヘシ

(ニ) 採鹹日數及ヒ月別及年採鹹量

那覇出張所ノ調査ニヨルニ

一反步一ヶ年平均採鹹量ヲ百六十二石トシ採鹹日數ヲ百七十日トセリ而シテ一ヶ年採鹹量ニ關シテ左ノ月步合ヲ表示ス

上田	二〇二、二 <sup>石</sup>
中田	一六二、〇
下田	一二一、五

割合	一月	〇三七	四月	〇三七	七月	一四八	十月	〇三八
	二月	〇三七	五月	一四八	八月	一四八	十一月	〇三七
割合	三月	〇三七	六月	一四八	九月	一四八	十二月	〇三七
合計	一〇〇〇							



小官ノ見ルトコロニ依ルニ那覇出張所調ニ係ル年採鹹日數百七十日ハ稍々多キニアラサルカ之レニ反シ中田年採鹹量ノ少ナキ感ヲ生セシヲ以テ種々ノ調査ヨリ左ノ計算ヲ得タリ  
 一ケ年採鹹日數(平年)百三十日間

百三十日間ヲ月割トナシ採鹹水量ヲ論セント欲シ沖繩縣地方測候所調査ヲ左ニ引用スルニ

月別	三十四年		三十五年		三十六年		三ケ年平均	全上百分率	採鹹日數百三十日ヲ月別トス
	晴	曇	晴	曇	晴	曇			
一	一日	一五日	二日	二日	一日	二四日	一八日	八七	一日
二	二日	二二日	三日	二日	一日	二二日	一七日	八二	一日
三	一日	一七日	二日	二日	一日	一六日	一七	九六	一日
四	一日	二二日	一日	二日	一日	二〇日	二四	一一五	一日
五	一日	二二日	一日	二日	一日	一八日	二二	一〇六	一日
六	一日	二二日	一日	二日	一日	一九日	一五	七二	一日
七	一日	二二日	一日	二日	一日	一八日	一五	七二	一日
八	一日	二二日	一日	二日	一日	一九日	一五	七二	一日
九	一日	二二日	一日	二日	一日	一八日	一五	七二	一日
十	一日	二二日	一日	二日	一日	一九日	一五	七二	一日
十一	一日	二二日	一日	二日	一日	一八日	一五	七二	一日
計	二日	二二日	二日	二日	四日	一三日	二〇	一〇〇	一三日

右ノ月別表(最下欄)ニヨリ

(四月ヨリ十一月迄ハ一日乾ナレハ)四月ヨリ十一月迄採鹹日數八十四日

(十二月ヨリ翌二月迄二及三日乾)十二月ヨリ翌三月迄同

四十六日

百三十日



八十四日ニ夏一日一石九斗ヲ乗シ  
四十六日ニ冬一日九斗ヲ乗シ  
百七十八石

一ケ年中田一反歩採鹹水量百七十八石

但シ夏一日一石九斗及冬一日九斗ハ「一敷」ヲ一反三畝トシ算出セシ數ナリ

(ホ) 採 鹹 人 夫

「一敷」(一反三畝ト假定ス) 男二人 女一人

但シ一日労働時間ハ普通労働時間ヨリ少ナキヲ以テ一日男拾五錢女拾二錢(普通労働ハ男貳拾錢女拾五錢)トセリ右ノ二

男一女ハ雇人ニアラスシテ一家族ヨリナリ時トシテ一男二女等一定セス

男二人百三十日間採鹹賃金三拾九圓

女一人百三十日間採鹹賃金拾五圓六拾錢

合計金五拾四圓六拾錢

一反三畝ニ付五拾四圓六拾錢一反ニ付金四拾二圓也

(ハ) 沼井ノ構造

沼井ハ沼井臺中ニ設ケ通例長サ四尺幅二尺五寸深サ二尺ノ孔ニシテ一個若クハ二個ヲ建設ス内部ノ構造ハ四壁及ヒ底部ヲ粘土ト石トヲ以テ塗り圍メ底部ニハ四隅ニ石柱ヲ立テ之レニ井形ニ松材ヲ渡シ其上ニ細丸竹ヲ敷キ更ラニ上部ニ小割竹敷キ詰メタルノミニシテ小割竹ノ上部ハ鹹砂ヲ入ル、處ナリトス前壺ハ粘土及石ヲ以テ築キタル孔ニシテ壺狀ヲナス

以上ノ二項ニヨツテ見ルニ鹽田用具及ヒ採鹹方法共ニ鹿兒島縣下ノ鹽業法ニ酷似シ鹽業沿革ニ鹿兒島縣人改良云々ト對照セハ自ラ其關係ノ密ナルコトヲ知ルヲ得ヘシ

然レトモ鹽田土壤ハ全然鹿兒島縣ニ異ナリ外觀黃色ヲ呈スル粗粒ハ砂土ヨリ成リ凝結スルノ傾アリ用具ニ於テ異ナル點ハ鹿



兒島縣下ノ如ク竹ヲ以テ製シタル器具即チ箆ノ類ニ乏シキコト及ヒ松材以外ノ良材稀ナルヲ以テ用具ノ形狀ヲ異ニスルモノ例令ハ柄杓ハ木皿ニ化シタルカ如キ二三沖繩式ニ變化セルモノアリ

竹材ハ殊トニ乏シクシテ「やんばら」竹ト稱スル小指大ノモノ、ミ叢生シ其他ノ竹類ハ殆ント稀ナルヲ以テ以下各項竹ト記スルモノハ多クハ「やんばら」竹ノ代名詞ナリ

(三) 煎 熬 法

(イ) 釜 屋

釜屋ハ極メテ粗雜ニシテ面積二乃至三間四方ノ茅葺ヨリ成リ四圍荒壁ヲ被フニ「やんばら」竹ヲ以テシ出入口ノ一面ハ約一間ノ板戸又ハ竹戸ニテ釜屋ノ爲メニ設ケタルモノ及ヒ居住ノ一部ニ設クルモノアリ釜屋内ハ窯及ヒ鹹水桶、鹽田用具等ヲ置キ貯鹽場ヲ兼ヌルモノ多ク通例一戸前ニ就キ一釜屋ヲ設備ス

釜屋内外ノ一奇觀ハ煙突ヲ設クルコト及ヒ消炭ヲ副成スルコトニシテ煙突ノ如キハ稍々進歩的構造ノ觀アリト雖トモ殆ント形式ニ過キサル有様ニテ煤煙ハ僅カニ排出スルノミニシテ釜屋内濛々トシテ煙リヲ逆流セリ煙道約四尺煙突口徑(内徑)約四寸粘土ト石及ヒ竹ヲ以テ釜屋外約三尺直立セシム

煙突ヲ設クルノ點及ヒ約三斗ヲ容ル、長方形ノ釜ハ全然鹿兒島宮崎地方ニ見サルトコロニシテ此ノ特種ノ關係ハ蓋シ沖繩縣ニ發達セル泡盛釀造家ノ用ユル窯ヨリ案出シタルモノナル可ク釜ノ小ナルハ鹽業組織ノ然ラシムル處ナルヘシ

窯ハ單ニ鹽ヲ煎熬スル爲メニ木材ヲ燃燒スルニ止ラス木材ヨリ消炭ヲ幾部分副成セシカ爲メニ可成太サノ大ナル松材ヲ撻ヤシ小ナル窯ニ對シテハ割木ノ過大ナルニ驚クコトアリ

右ノ有様ナレハ窯ノ構造ハ前面ニ勾配ヲ附シ大ナル割木ヲ徐々ニ燃ヤシツ、火焰ヲ發セサルニ至ラハ窯ノ前ニ設ケタル火消壺ニ投シ消炭トナス元來沖繩縣ハ炭ニ乏ウク火消炭ノ需要ハ自家用ノミナラス相當ノ價格ニ購入スルモノ多キ結果殊更消炭ヲ求ムルニ至リタルナルヘシ



(ハ) 釜

釜ハ大小種々アリト雖トモ最モ普通ト認メタル一個ヲ測定シタルニ鹹水三斗ヲ入ル、鐵製釜ニシテ五厘鐵板ヲ曲ケテ長サ三尺八寸五分幅二尺四寸五寸深サ二寸

底部ノ長サ三尺四寸幅二尺一寸トセシモノナリ

一釜ノ容量ヲ一くみト稱シ鹹水量ヲ測ルニ幾くみト云フ習慣アリ

(附) 鹹水溜ハ八斗乃至三石ヲ容ルヘキ樽ニシテ粘土製ノモノナシ

(ニ) 煎 熬 法

先ツ釜ニ溢ル、程鹹水ヲ容レ約一時間煎熬セハ沸騰シ始ムルヲ以テ「さら」ヲ以テ一二回鹹水少許ヲ掛ケ溢出ヲ防ク同時ニよせぐわーニテ汚物泡沫ヲ取り去ルコト二回沸騰後ハ火力ヲ徐々ニシ旁ラ他業ニ從事スルモノアリ徐々ニ熱スルコト二時間位ニシテ結晶鹽盛ンニ沈定シ殆ント釜ニ燒ケ付カン許リニ至リ鹽ヲ箆ニ移シ丸木ヲ半截シ窪クシタル苦汁滴下臺ト一に上ニ置キ苦汁ヲ滴下セシム釜中ノ苦汁ハ四釜位殘シテ煎熬ヲ繼續シタル後チ汲ミ取ルヲ常トス  
割木ハ松材ニシテ長サ一尺二寸位ノモノ多シト雖トモ可成太ク長キヲ避ム

(四) 製鹽及燃料

(イ) 一釜製鹽及燃料

夏 季 冬 季

一釜鹹水量

比 重

製鹽量(四等鹽)

燃 料

三斗

母氏 二二二度

二二(一斗一升)

六把

三斗

母氏 一九度

一五(七升五合)

八把



煎熬時間

時間

四

(口) 一日平均煎熬釜數及年煎熬日數

夏期 一日 四釜

冬期 一日 三釜

夏期 煎熬日數 百日 計百六十日

冬期 煎熬日數 六十日

(ハ) 一ケ年製鹽量

夏期一釜二十二斤四百釜ナレハ八千八百斤

冬期一釜十五斤百八十釜ナレハ二千四百斤 計一萬千二百斤

(ニ) 燃料

燃料ハ國頭郡ノ産最モ多ク通例一把一錢三厘

一把ハ松割木長サ一尺二寸位ノモノ三本ヲ一束トシ一把ト稱ス

(ホ) 一ケ年燃料費

夏期 四百釜一釜六把ナレハ二千四百把三拾一圓二拾錢

冬期 百八十釜一釜八把ナレハ千四百四十把拾八圓七拾二錢

計 三千八百四十把四拾九圓九拾二錢

(ヘ) 一ケ年煎熬勞銀

一ケ年煎熬日數百六十日ナレハ一日女(通例煎熬ハ婦人又ハ老幼者)一人拾五錢ト見積リ二拾四圓







(二) 鹽ノ販賣

(イ) 鹽ノ用途

主トシテ一般調理及ヒ味噌醬油醸造ノ原料ニ使用セラレ一部分豚肉類ノ鹽藏ニ供スルノミニシテ從來縣外ニ輸出セシコトナシ

苦汁ハ殆ント廢物ニシテ豆腐製造用ニ多少使用スルノミ其他製鹽ノ際生スル物料ハ少シモ利用セス

(ロ) 鹽ノ相場

那覇出張所ノ調査ニヨルニ

	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年	三十八年
呼稱一石 <sup>(實容)</sup> 卸賣一石當	三・四〇〇 <sup>円</sup>	三・六〇〇 <sup>円</sup>	三・七〇〇 <sup>円</sup>	三・六〇〇 <sup>円</sup>	四・〇〇〇 <sup>円</sup>
實容一石	一・七〇〇	一・八〇〇	一・八五〇	一・八〇〇	二・〇〇〇
呼稱一升 <sup>(實)</sup> 一升當	〇・〇三七	〇・〇四〇	〇・〇四一	〇・〇四〇	〇・〇四四
實容一升 <sup>(實)</sup> 一升當	〇・〇二二	〇・〇二四	〇・〇二四	〇・〇二四	〇・〇二六

出張ノ際濱相場及小賣相場ニ關シ若シ記録ノ存スルモノアラハ比較調査ヲ行ハント欲セシニ元來當縣小賣業間ニハ一ツノ記録ノ如キモノナク一面ニ於テ醬油醸造家ニ就テ鹽買入帳ノ如キモノハ專賣後帳簿ヲ捨棄シタリト唱ヘ終ニ正鵠ヲ得ヘキ調査ヲ得サリキ

那覇市山下醬油屋ニ赴キ店主ノ記憶ヲ問ヒシニ從來一斗ニ付拾五錢乃至二十三錢(但シ三十八年專賣前ハ三拾錢ニ暴騰セリト)ニシテ舊正月前ハ通例高價トナリ舊六七月ニハ下落スト而シテ當店ニ用ヒタル一斗樹ハ實容量一斗四合ノモノナリ(圖面參觀)



而シテ平年一年(小賣相場ヨリ稍々廉價ナリト)ノ價ハ

一	月	〇・二五	五	月	〇・二〇	九	月	〇・一五
二	月	〇・二三	六	月	〇・二五	十	月	〇・一五
三	月	〇・二二	七	月	〇・二五	十	月	〇・二〇
四	月	〇・二〇	八	月	〇・二五	十	月	〇・二三

平均一斗拾八錢八厘

那覇市同漕店鮫島作次郎氏ハ專賣那覇鹽ヲ購入シ宮古、八重山、離島ニ移輸セシコトアリト聞キ同氏ニ就テ大福帳ヲ繰返セシ  
 ニ小賣者ヨリ購入シタル價格ヲ附記セリ依テ左ニ此レヲ記載スルニ  
 但シ三十六年八月以前ノ帳簿ハ紛失セリト

三十六年	八月上旬	〇・〇四四	三十七年	一月下旬	〇・〇四六	三十七年	五月中旬	〇・〇三六
同	下旬	〇・〇四〇	同	二月上旬	〇・〇四六	同	六月下旬	〇・〇三六
同	九月上旬	〇・〇四〇	同	三月上旬	〇・〇三六	同	七月上旬	〇・〇三六
同	十月中旬	〇・〇四二	同	三月中旬	〇・〇三六	同	八月下旬	〇・〇四〇
同	十一月上旬	〇・〇四二	同	三月下旬	〇・〇四〇	同	八月下旬	〇・〇三六
同	十一月下旬	〇・〇四二	同	四月上旬	〇・〇四五	同	九月上旬	〇・〇三二
同	十二月下旬	〇・〇五〇	同	四月中旬	〇・〇四五	同	十月上旬	〇・〇三二
三十七年	一月中旬	〇・〇五〇	同	五月上旬	〇・〇三六	同	十月下旬	〇・〇三三

自明治三十六年十月(呼稱一升(一升五合)平均四錢實容一升二錢六厘  
 至明治三十七年十月

右ノ山下醬油屋ハ小賣一升賣ヨリモ安ク濱相場ヨリ高シ鮫島氏ノ分モ亦純粹ノ小賣相場ニアラスシテ小賣ヨリモ稍々低價ナ



リト

從來沖繩縣官衙ニ於テ調査セル鹽ノ相場表ノ如キモノヲ徵スルニ一石若クハ一升ナル稱呼ハ果シテ實容量ヲ示スモノナルヤあきちやめ一量ニヨルモノナルカ稍々不明ノ點アルヲ以テ茲ニ記載セス

(ハ) 鹽ノ輸送

沖繩縣本島ニ於テハ撒鹽ヲ以テ輸送又タハ販賣シ包裝鹽ヲ用ヒサリシト本島ヨリ宮古、八重山島へハ正味七斗五升通稱五斗俵及ヒ三斗五升入通稱二斗俵ト唱ヘテ呷入(古呷使用)トナシ汽船便ニテ運送シ一俵ニ付運賃二斗俵ニテ拾五錢古呷繩代共四錢水揚代四錢計二拾三錢ヲ要セリト

(ニ) 販賣習慣

製鹽ハ主トシテ仲賣業者ノ手ヲ經テ一般消費者及ヒ醬油釀造者ニ販賣セラル、モノニシテ仲賣人ハ殆ント婦女子ヨリ成リ需要ニ應シテ撒鹽ヲ箆ニ入レ頭上ニ載セ運搬シ或ハ單ニ頭上ニ載セテ市街ヲ鬻賣ス

仲買者ノ數ハ鹽製造者ノ數ヨリモ超過シ或者ハ製鹽者ニ多少ノ資金ヲ融通シ契約購入ヲナスモノアリシト其他ハ各釜屋ニ到リテ鹽ヲ購入シ直チニ市街ヲ鬻賣シ若クハ得意先ニ仲買ノ勞ヲ採リ小賣兼仲買ノ業ヲ營ムモノナリ所謂一升賣即チ小賣ニ際シテハ他縣ト異ナル一種ノ習俗アリテ購入者ハ一升枴ニ出來得ル丈ケ多量ノ鹽ヲ充填セントシ小賣人ハ之レヲ拒ミツ、宛然爭鬪ノ狀ヲナス俗ニ鹽賣りノ手は傷がつくと云フ相互爭亂スルニ足レリ此ノ如キ有様ナレハ呼稱一升ハ實量二升以上二升六七合ニ達シ鹽販賣ニあきちやめ一計リナル語ヲ唱フルニ至レリ蓋シあきちやめトハ感動詞ニシテ亂暴計リナル意ヲ含ムモノナリ

鹽ノ相場ハ製鹽ノ豊凶及ヒ需供ノ關係ヨリ製鹽者ト仲買者ニヨツテ定マルモノニシテ一定セス調査亦困難ニテ材料ヲ得サリ



キ

(ホ) 沖繩縣ニ於ケル鹽ノ消費

專賣前ニ於ケル鹽ノ調査ハ蓋シ杜撰ナルモノ多ク據ルヘキモノナシ明治三十八年六月ヨリ本年三月末日迄ニ納付シタル製造ハ三百三拾六萬五千斤餘ニシテ内沖繩ヨリ鹿兒島宮崎ニ移輸シタル額百六十七萬斤ナルヲ以テ十ヶ月間ニ沖繩縣下ニ消費シタル額ハ差引百六十九萬五千斤之レヲ一ケ年ニ換算セハ約二百萬斤ニ達スヘシ然レトモ昨年六月ハ事實實施ノ期ニシテ實施前鹽價騰貴ヲ豫想シ買込ミタルモノ少ナシトセス持越鹽ノ數量明カナラス且ツ縣内ハ密賣盛ンニ行ハル假リニ兩者ノ數量ヲ倍量トセハ一ケ年ノ消費額四百萬斤ナランカ

(附) 當縣ニハ從來輸入鹽稀ニシテ沖繩貯藏食品製造株造會社及ヒ市内ニ於テ多少中國鹽ヲ使用セリト聞ク然ルニ沖繩縣統計書ニヨルニ

輸 入 鹽	輸 出 鹽	三十二年	三十三年	三十四年	三十五年	三十六年
八六一・〇〇〇 円	・	九〇〇・〇〇〇 円		円		一七一・〇〇〇 円

三十二年及三十三年ニ約九百圓ノ輸入アリタルカ如シ要スルニ沖繩縣ハ從來鹽ノ價格廉價ニシテ産額縣内ノ消費ニ足レリト認ムルニ中國鹽ノ移入少カラサルハ三十二年及ヒ三十三年ノ二ケ年ニ止マリ平年ニ於テハ食品製造會社及ヒ市内料理店用位ニ過キスシテ僅々ノ數量ナルヘシ

(ヘ) 納付ニ要スル費用

那覇出張所管内製鹽地ハ那覇區泊、中頭郡泡瀨知念佐敷間切、糸滿地方ニシテ就中泊、泡瀨ハ最モ盛ニ且ツ産額、鹽田反別多大ニシテ共ニ二十町歩内外ヲ有ス



泊ヨリ那覇出張所マテハ數町納付費一俵(四十斤)一錢内外ヲ要スヘク之レニ反シ泡瀨地方ハ出張所ヨリ約六里

馬	同	馬	船	馬
一頭	一車	一車	一艘	一車
四俵	二俵	二俵	八俵	二俵
至自那泡	至自那普	至自那泡	至自那泡	至自那與
那泡區	天瀨門村	天瀨區	那瀨原村	那與區
四拾錢	十錢	壹圓	壹圓六拾錢	壹圓
二十五錢	二十錢	拾七錢五厘		

泡瀨村ヨリ那覇區ニ運搬スルニ經路三アリ一ツハ馬ニ載セ四俵位ヲ積ミテ納付スルモノ一ツハ泡瀨村ヨリ普天門マテハ道路不良スルヲ以テ馬ニ積ミ普天門ヨリ馬車ニ集メテ運搬スルモノ一ツハ泡瀨村ヨリ中頭郡與那原マテハ海路船ニヨソテ廻漕シ與那原ヨリ馬車ニ積ミ換ヘ那覇區ニ運フモノトアリ後者最モ利益アリト雖トモ一ヶ月ニ一回若クハ二回出航スルコト及ヒ風波ノ際ハ納付ニ時日ヲ要ン且ツ船積ハ鹽ノ品質ヲ害スト稱シ馬及ヒ馬車ニヨルモノ多シ

(ト) 地主ト小作

那覇區泊鹽田ハ過半那覇區有ニシテ一名ノ大地主トヨリ成リ小作者大部分ヲ占ム

泡瀨地方ハ農家副業者多ク自作者若クハ官有地ヲ借入セルモノヨリ成ル

小作料ハ鹽ノ豊凶ニ關セス一定ノ料ヲ金錢ニテ仕拂フヲ常トス小作料月三圓乃至七圓毎月納付スル契約ニシテ小作期限ハ地主ニ於テ隨意定ムルモノニシテ小作料延滞スルトキハ行ハル、モノトス

上田 中田 下田 平均  
 七圓五拾錢 六圓 四圓 五圓八拾三錢



區有及ヒ郡有借地料

郡 有  
區 有

一坪一ヶ年借地料六厘(平均)  
一坪一ヶ年借地料九厘六毛(平均)

那覇區泊

(チ) 鹽田地價及時價

等級	地價	時價
上等田	一二・五〇〇 <sup>円</sup>	六〇・〇〇〇 <sup>円</sup>
中田	八・五〇〇	四五・〇〇〇
下田	四・〇〇〇	三〇・〇〇〇
平均	八・三三三	四五・〇〇〇

(附) 鹽ノ性質

等級	鹽量	等級	鹽量	等級	鹽量
三	二九八・〇 <sup>匁</sup>	四	三〇九・〇 <sup>匁</sup>	五	三二五・六 <sup>匁</sup>
一	一・八 <sup>斤</sup>	一	一・九 <sup>斤</sup>	一	二・〇 <sup>斤</sup>

四等鹽ニテ四十斤一呎ニ付平均二斗

(結晶) 鹿兒島縣内ノ鹽ハ結晶一般ニ中若クハ大ニシテ小粒少ナシ然ルニ沖繩產鹽ハ一般ニ小粒宛然中國鹽ノ如シ

(色澤) 一般ニ光澤ヲ欠ク然レトモ近來白色ノモノ多ク赤褐、青色ヲ帶フモノ漸然少ナシ

(成分概評) 成分鹽化曹達ニ富ミ比較的鹽化苦土及ヒ鹽化加里少ナシ結晶小ナルカ故ニ外觀水分多キカ如シト雖トモ鹿兒島

縣下ノ產鹽ニ比シ苦土ノ加里鹽及ヒ水量分遙カニ少ナシ只タ往々鹽殼ヲ混スルノ缺點アリ



#### 第四章 沖繩縣鹽業改良意見

沖繩縣ノ鹽業ハ規模頗ル狹少從テ生産費ヲ要スルコト多キカ如シト雖トモ民度未タ低ク生活ノ程度易キカ故ニ現今比較的廉價ニ鹽ヲ生産スルコトヲ得ヘシ然ルニ燃料(松材)ノ騰貴ハ一年ニ上昇シ民度亦進ムニ從テ勞銀ノ騰貴勞力ノ缺乏ハ免レサル現象ニシテ今後鹽業ノ改良ヲ計リ社會ノ趨勢ニ應シ生産費節減殊トニ勞力、燃料ニ於テ劃策ナカルヘカラスト信ス而シテ其必要ハ最早遠キ未來ニアラスシテ刻下沖繩縣下鹽業ノ盛衰ニ關スル問題ハ沖繩鹽ノ需供ニ支配セラレ改良ノ一大急務アリト認ム

當縣一ヶ年鹽ノ消費高ヲ約四百萬斤ト算セハ製鹽見込高八百斤ニ對シ若シ平年作柄ナランニハ四百萬斤ノ過剩ヲ生シ之ヲ他地方ニ移輸セサル可カラサル狀況ナリ既ニ昨年六月ヨリ本年三月末ニ至ル鹽收納高三百四十四萬餘斤ニ對シ百六十七餘斤ハ縣内消費額ヲ超過シ鹿兒島及宮崎縣下ニ移輸シタルニアラスヤ勿論專賣當初ハ持越鹽多クシテ標準トナスニ足ラスト雖トモ現今尙ホ盛ンニ移輸シツ、アルヲ以テ見レハ襄キニ記シタル四百萬斤ノ輸出ハ決シテ空想ニアラスト信ス

沖繩下平作以上ニ達シ鹿兒島宮崎縣下モ亦平作以上ノ收納アリト假定セハ既ニ鹿兒島宮崎縣下ニ過剩ヲ生スヘキヲ以テ沖繩縣產鹽ノ過剩ハ如何ニ處理スヘキヤ臺灣ニ向フ可キカ否朝鮮支那ニ向フヘキカ否中國鹽ト競争シ北海道若クハ露國東海岸ニ向フノ外カ途ナカルヘキカ要スルニ現今沖繩ヨリ鹿兒島市ニ移輸シツ、アル狀況ヨリ考フルニ沖繩ト鹿兒島トハ同一賠償價格ニシテ沖繩ト鹿兒島ヲ距ツ三百六十餘里ノ運賃其他及ヒ鹽ノ步減等アリテ同一價格ヲ以テ販賣スルコトヲ得ス殊トニ沖繩鹽ハ結晶細粒樹目ニ乏シク從來賣買ノ習習上樹目ニ重キヲ置ケル一般ノ有様ナレハ市場ノ評ニ曰ク沖繩鹽ハ價格高クシテ樹目ナキカ爲メニ賣捌人ノ好マサルトコロ又タ一般需要者ハ鹽質異ナルカ故ニ一種嫌辱ノ傾向アリト云フ

鹿兒島縣下ニ於テ此ノ如シ到底賠償價格低廉ナル中國鹽ト戰フカ如キ及ハサル空想ノミ

右ノ有様ナルヲ以テ沖繩鹽生産費ノ節減ハ實ニ最大急務ニシテ既ニ當局ニ於テハ天日製鹽法折衷策ヲ採ラント欲シ試驗ニ着手セリ若シ折衷法不可能ニ屬スレハ中國地方ノ如キ組織トナシ石炭焚ヲ試驗セント欲ス幸ヒニ縣下八重山島ニハ石炭ヲ産シ



一ヶ年約九百五十萬斤(縣廳調)ヲ出スト云フ今回竈改良ニ着手シタルハ石炭焚ノ効果ヲ收メント欲シタルナレトモ不幸根本ノ組織ヲ改良セシテ單ニ竈ノ改良ノミニ走り優ニ石炭焚ノ利益アルコトヲ示シタルモ着々改良竈ニ改築スルモノ少ナシ然レトモ縣下ニ改良ノ必要ヲ感セシメ一ツノ動機ヲ與ヘ得タリト信ス

沖繩縣鹽業改良要點ヲ摘記セハ

一、小規模ハ合シテ大規模トナスコト

二、小釜ヲ廢シテ石炭焚大釜ヲ利用スルコト但シ現在ハ比較的の石炭高價ナレハ松割木ト併用スルモ可ナリ

三、鹽業者間ニ信用組合若クハ其他ノ組合ヲ設ケ改良及ヒ改築ニ金子ヲ利用スルコト

四、鹽ノ結晶及ヒ其他ノ性質ヲシテ移輸先ノ嗜好ニ適セシムコト

五、吹ノ製造ヲ傳習シ鹽業者ノ副業トナスコト

尙ホ一考ヲ要スヘキハ鹽ノ納付取扱ニ關スル問題ニシテ那覇出張所管内ハ那覇市ニ一ヶ所ノ納付所アルノミニテ美里間切泡瀨ヨリ納付スルニハ費用少ナカラス多少ノ不公平ハ萬止ムヲ得サルモノト認ムルモ泡瀨地方知念佐敷地方ヨリスル運賃ト那覇區泊ヨリスルトハ著シキ差違アリ若シ那覇區泊ニ於ケル鹽業法他ニ異ナル所アリテ運賃以上ニ生産費ヲ要スルモノアレハ單ニ運賃ノミヲ視テ判斷シ難シト雖トモ其他同一ニシテ運賃ノミ甚タシク差違アルモノ、如ク今後調査ノ上泡瀨、具志川、知念、佐敷ニ便ナル一倉庫ヲ設クルノ必要アリト認ム